

FISHING トピック No.38

たつ お ご 竜の落とし子

今年も猛暑が続き、ひときわ厳しい日差しが照りつけていますね！さて、昨年さくねんの9月に土に埋めたハモを掘り起こしました。埋めたことをすっかり忘れていて約1年が経ち見つかるか不安でしたが…無事発見！長期間埋めていたため頭部しか残っておらず歯も紛失(;▽;)今回は残念ながら上手く標本にできませんでした。



機会があればリベンジしたいと思います。さてさて、台風の影響で喜多川海岸は連日、白波が立ち大時化の状況が続いています。そんな中、タツノオトシゴを捕まえたとき海岸に遊びに来ていた市民の方が見せに来てくれました。なんと3匹も！数日後、磯場で生き物観察しているとタツノオトシゴを発見。泳ぐのが苦手な魚なので流させてきているのか今年ことしは例年になく出会うことができるようです。今回捕まえたタツノオトシゴは荒波にさらさせ続けた

ようで衰弱していました。観察した後は波が穏やかな海藻が生い茂る場所へ逃がしてやりました。タツノオトシゴは日本では「竜の落とし子」と表します。姿が竜にとってもよく似ており、遥か彼方の天空から竜が海に産み落とした子どもと昔は考えられていました。そんなタツノオトシゴは不思議な生態を



持っています。それはオスが産卵することです。実際は産卵しているように見えるだけです…。タツノオトシゴのオスには育児嚢と呼ばれる子どもを育てるための袋があります。この育児嚢の中にメスは卵を産み落とし、卵が孵化するまで育児嚢の中でオスが面倒をみます。岩場や海藻に卵を産みつける魚や海中で卵を産み漂わせる魚が多い中、タツノオトシゴはなぜこのような方法をとっているのでしょうか？それは卵の数が他の魚にくらべ



圧倒的に少ないからです。タツノオトシゴは100～200個しか卵を産みません。できる限り産まれた子どもが大人になるように工夫しているようです。今年ことしは滅多に見つけれないタツノオトシゴを観察できるチャンスかもしれません。みなさんも夏のひととき磯遊びに興じてみてはいかがでしょうか？タツノオトシゴは昔から縁起が良い生き物とされています。見つけたら何かいいことがあるかもしれませんよ！？